

厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）  
分担研究報告書

## 移植に携わる医療者への啓発に関する研究

研究分担者 吉住 朋晴 国立大学法人九州大学・大学院医学研究院・教授

**研究要旨：**

本邦の臓器提供者数は世界の低位レベルにあり、臓器提供意思表示率も低下傾向にある（10.2%、2021年10月、内閣府2021）。つまり、行動変容メカニズムに基づく移植啓発が重要であると考えられる。本分担班では、移植に携わる医療者への啓発に関する課題の抽出と解決策策定・実施を目的としている。臓器提供のプロセスにおいては、1. 生前臓器提供の意思表示あり、2. 家族の自発的な提供の申し出、3. 医療提供者側からの説明（オプション提示）のいずれかが必要であるが、いずれも十分な申し出やオプション提示が医療現場でなされているとは言い難く、医療現場において移植啓発に効果的なロールモデルの構築が急務である。今回、医療系学生・非医療系学生への移植に関する講義及びアンケート解析を行った。学生については、臓器提供の意思表示をするのかどうか、といった身近なことから移植について理解を深めてもらう必要があると考えられた。また、移植医療教育のためのコンテンツ作成も有効と考えられ、移植学会と共同で資料作成を行なった。

**A. 研究目的**

移植啓発のロールモデル構築に関する研究として、学生（医療系、非医療系）に対して移植に関する講義を行い、アンケート結果を通して移植啓発に効果的なロールモデル構築を模索する。

**B. 研究方法**

学生への講義及び、講義内容についてのアンケート調査を実施した。

また、内科医に対する移植医療教育のためのコンテンツを作成した。

**C. 研究結果**

医療系学生への講義として、2024年度は7月5日に徳島大学医歯薬学部1年生、10月29日に宮崎大学看護学科2年生に、2025年1月24日に福岡歯科大学研修医に医療従事者への啓発を兼ねて講義を行った。講義後にはアンケートを実施し、多数の回答を得た。アンケートの結果、学生のうち移植に関する講義を受けた経験が8割以上に及ぶことが確認された。また、非医療系学生への講義としては、2024年5月11日、7月24日、12月24日に九州大学1-4年生（選択希望者）、10月18日に医学研究院修士課程1-2年生に対して講義を行った。さらに、7月28日に高校1-2年生対象の講義を行った。また、高校生の脳死下臓器提供に対する意識調査を検討することとし、高校生1182人、医療関係者とその家族285人を対象にGoogleフォームで臓器提供・臓器移植に関する無記名のアンケート調査を行った。臓器提供の意思表示率10.1%（医療関係者36.5%、 $P<0.0001$ ）、脳死と植物状態の相違を理解55.0%（医療関係者58.9%、有意差なし）、死後に臓器提供しても良い47.9%（医療関係者54.0%、有意差なし）、臓器提供に同意した家族の死後、

提供に同意30.3%（医療関係者49.5%、 $P<0.0001$ ）、臓器提供の意思不明な家族の死後、提供に同意18.0%（医療関係者15.4%、有意差なし）。高校生の脳死下臓器提供に対する意識は、令和3年の内閣府世論調査の結果とほぼ同等であった。家族の死後、臓器提供への同意率は同世論調査より低かった。2025年春から夏に高校生に対して資料を用いた啓発活動を行い、啓発活動後に再度アンケート調査を行い、啓発活動による意識の変容について検討する予定である。さらに、移植医療教育のためのコンテンツの作成にも取り組んでおり、医師への啓発資料としての活用を検討している。

**D. 考察**

医学生への講義及びアンケート調査から、多くの学生が移植について学んだ経験があることが明らかになった。講義後のアンケートでは、臓器移植に対する前向きな回答が得られるものの、継続的な啓発活動が重要であることを認識した。学生への啓発においては、まずは（医療系ではない）一般人として移植について理解してもらい、その後に医療従事者として移植啓発の運動を行ってもらう必要があると考えられた。特に、臓器提供の意思表示をするかどうかといった身近な問題から議論を広げていく必要があると考えられた。

**E. 結論**

臓器提供のプロセスにおいて、生前臓器提供の意思表示、及び家族の自発的な提供の申し出が増加することは、移植啓発の一助となりえると考えられる。学生への講義を通して、移植について考えてもらうこと、そしてその考えが周りに広がることが重要だと考えられた。また、意識変容には、繰り返す啓発活動の重要性が示

**【吉住分担班報告】**

唆された。さらに、今後は、教育のためのコンテンツの普及も重要と考えられた。

**F. 健康危険情報**

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

**G. 研究発表**

**1. 論文発表**

戸島剛男、伊藤心二、吉住朋晴 肝移植の最前線 Precision Medicine 7巻1052-6, 2024

吉屋匠平、戸島剛男、吉住朋晴 肝移植の現状と課題 BIO Clinica 40巻 1314-9, 2025

筒井由梨子、伊藤心二、戸島剛男、本村貴志、湯川恭平、吉住朋晴 移植医療のやりがいと課題 外科 87巻 182-5, 2025

**2. 学会発表**

該当なし  
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

**H. 知的財産権の出願・登録状況**  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
該当なし

2. 実用新案登録  
該当なし

3.その他  
該当なし

3.その他  
該当なし